

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470101496		
法人名	特定医療法人 善昭会		
事業所名	グループホーム菜の花(1階)		
所在地	大分県大分市東鶴崎3丁目1番6号		
自己評価作成日	令和5年10月1日	評価結果市町村受理日	令和6年1月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和5年11月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かで落ち着いた住宅地に立地し周囲の環境に恵まれている。隣には保育園があり可愛い園児の声が聞こえて来たり散歩している姿が見えると手を振ったりして和んでいます。母体の医療機関や介護施設と併設しており緊急時の対応を迅速に行っている。季節感のある行事、貼り絵等を実施。誕生日には月でまとめずに個別でお祝いし大切な行事として捉えている。毎月、ご家族様や町内会に郵送及び回覧している「菜の花たより」は写真を主としてご家族様が入居者様の普段の様子や状態を把握出来ると好評である。毎日入浴の機会を設けている為保清を保てるのと体調の変化にも対応しやすい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・閑静な住宅街に立地して、周囲の環境に恵まれている。
- ・母体が医療機関であり、治療や体調不良等支援がスムーズに行われる体制がある。
- ・毎月発行される「菜の花便り」により、入居者の様子が写真入りで見ることが出来て安心感が伝わってくる。
- ・季節に合わせ、クリスマス会や誕生日会開かれ、楽しみの一つになっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域と共に、自然と共にその人らしく」を理念とし、その実践に向けて日常的に教育している。	廊下に掲示された理念を基に、その人に合った介護に努めている。「その人らしく」を管理者・職員で共有し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症流行にて地域との交流は思うようにできていない。その代わりに行った行事等を毎月新聞「菜の花だより」に載せて地域の方へ回覧板で知ってもらい交流図っている。	毎月「菜の花便り」を地域にも回覧板を通じ知ってもらい、地域とのつながりを大切にしている。散歩の折など近隣の方からの声掛けもあり交流に繋がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて職員が参加した研修で学んだ内容、感想を発表している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催している。104回の開催となり参加者からの意見等は施設職員にも周知しサービス向上に努めている。	二ヶ月に一回、対面で開催している。家族代表の出席もあり、参加者からの意見等、職員に周知してサービス向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や行事に参加してもらう等で事業所の取り組みを伝え、それについての意見をもらったり評価結果についてもその場で報告する。	運営推進会議や消防避難訓練などに参加もあり、現状の話や意見を聞いたり連携が取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する研修に職員定期的に参加し定例会で勉強会として再度発表。共有認識を図っている。入居者の状態を観察し見守ることで拘束しないケアの実践に努めている。	定期的に法人の研修会があり、持ち帰り施設内で月一回の定例会で発表。不参加者には資料で配布し情報を共有し、拘束しないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修に職員定期的に参加し定例会で勉強会として再度発表。共有認識を図っている。又、職員の言動にも気を配り助言やアドバイスを行っている。		

事業者名:グループホーム菜の花(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は定期的に権利擁護の研修に参加し、成年後見制度についても学び定例会で勉強会として再度発表。共有認識を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前までは相談員が、契約とその後は管理者やホームの職員が家族や関係者へ説明し納得した上で同意を得ている。改定時は文書にて説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱、苦情相談施設の案内等、玄関に設置している。毎月の便りに個別のメッセージをそえている。運営推進会議に入居者、ご家族様の参加お願いし意見、要望を頂いている。	コロナ禍での面会制限が火・木・土の15分程度2人限定で可能になった。便りにより今の状況を知らせ、家族からの質問や意見を頂き、対応・支援につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例会を開き職員一人一人の発言のもと全員が自由に意見を言い業務の見直しや運営に活かしている。	第一月曜日に定例会議があり業務時間や食事形態等、意見を言える雰囲気作りに努めている。日々意見ノートにその都度気付いた事を書く様になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当、時間外手当等の支給や、やむを得ない理由で業務に支障が出た場合にも柔軟な対応ができるように日頃より働きやすい職場環境に努めている。講演会や研修参加、資格取得への支援もしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外で開催される研修には出来る限り多くの職員が参加できるようにしている。職員は積極的に研修に参加しスキルアップを目指すようにしている。研修の報告は勉強会を兼ねて定例会で発表。報告書は誰でも閲覧出来るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染流行あり同業者との交流機会が減ってしまったが勉強会等は感染に配慮しながら参加、交流に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に事業所を見に来てもらい必要であれば通って貰ったりお話ししながら安心して施設での生活が送れる様関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居する際事前に見学に来てもらったりご家族の方と対面で困っている事、要望等に耳を傾け相談員、ケアマネ、管理者が連携してご家族との話し合いの上信頼関係を作る。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントで得た情報を元に相談員、ケアマネ、管理者が連携し必要なケアを見極め可能な限り柔軟な対応を行える様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の得意な事や出来る事を把握し一緒にやりながら教えてもらったり助け合ったりする。又、そういう場面が多くもてる工夫をする。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはどんな小さな事でも報告する。また、いつもと違う事や伝えたい事あればすぐに家族連絡する。毎月「菜の花だより」には担当がそれぞれの家族に現状を報告する。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、知人との関係を大切に維持できるように、電話、手紙などで関係の継続を心掛けている。	コロナ禍であり、外出も人混みを避けて外気を感じられる様近くで散歩を主とし、電話での交流や、手紙、年賀状等での継続支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性について情報連携し、全ての職員が共有できるようにしている。毎日の食事やお茶の時間は職員も一緒に話し様子見て入居者同士の関係が円滑になるように働きかけている。		

事業者名:グループホーム菜の花(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連携機関の利用や面会に行く等して関係を断ち切らない様になっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言葉をしっかり受け止め希望や意向の把握に努める。意思疎通困難な方には、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。	日々の関わりの中で入居者同士の会話や思いを聞きながら職員で情報を共有し、本人の希望、意向に添える様に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートの作成、併設施設との情報交換、家族、関係者からの情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	他職種との連携、職員間の情報交換、分かりやすい記録の仕方、定期的なカンファレンス等により、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の方一人一人に職員担当者を決めている。本人、家族、主治医、職員からの意見を反映し本人が良く暮らせるための課題をあげ、職員全員で意見交換、モニタリング、カンファレンスを行っている。	日々の関わりの中で情報を基に定例会で皆で検討し、それぞれの担当からプランに添って現状に即した介護計画を作成している。一日の流れを居室にも貼ってある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや入居者の状態変化には個々のケア記録や独自のシート、看護記録に記入している。本人の言葉で記録し情報を共有し、それらを基に見直し、評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の意向に配慮しながら、面会の延長や外泊、受診の付き添い等、柔軟に対応している。		

事業者名:グループホーム菜の花(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事を把握しコロナ感染流行で地区行事に参加出来なかった時は暮らしに取り入れたり、消防署、民生委員等との意見交換もしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所協力の他、本人や家族に情報提供し希望する医療が受けられるよう支援している。また、訪問診察に来て貰うケースもあり複数の医療機関との連携も密に結んでいる。	母体医療機関の往診を月二回受けている。以前よりのかかりつけ医とも連携が取れ、適切な医療が受けられる支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており常に本人の健康管理や状態変化に応じた支援を行える様になっている。看護職員がいない時は連携医療機関との連携も密にとれる体制が確保されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院による廃用症候群を防ぐため医師や看護師と相談し事業所内での対応可能な段階でなるべく早く退院出来る様アプローチしている。又、職員が頻繁に見舞う様にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意思確認書を作成し、事業所が対応し得る最大のケアについて入居時に説明を行っている。	入居時に施設が対応し得るケアの説明をして、終末期の法人内の施設へ住み替えも出来るなど、方針も共有し支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの設置と緊急時対応の勉強会を実施している。夜間時の緊急対応についてもマニュアルを整備し周知徹底を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し消防署の協力を得て年2回避難訓練、避難経路の確認、消火器や消火設備の使い方等の訓練を行っている。非常食を準備し地域の協力体制については自治会や消防団に運営推進会議を通じて協力を呼びかけている。	年二回避難訓練を行い地域の協力体制もあり、備蓄や大雨、津波災害の防災マニュアルも作成されており職員の連絡網もあり、BCPも完成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会やカンファレンスの際に職員の意識向上を図るとともに日々の関わり方をリーダーが確認し本人の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。	一人ひとりのプライバシーや尊厳を大切にしている。定例会での勉強会を基にそれぞれが本人の気持ちを大切に、さりげないケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の方々に合わせて言葉かけを変えたり、表情を読み取ったりしながら思いを聞き出し複数の選択肢を提案して自己決定できる様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設での一日の流れはある程度あるが入居者の方の体調に合わせてその時の思いを尊重し出来るだけ個別性のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の更衣は本人の意向で決めており、職員は見守り支援が必要な時に手伝っている。自己決定出来ない入居者の方には職員と一緒に考えて鏡を見ながら支援している。散髪時には自分で言える様に職員が付き添いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食に関心を持ってもらい食欲を高める為にその都度献立を伝えたり、口腔体操を実施し食事を楽しんで貰える様に努めている。後片付けは入居者様にも手伝って頂き一緒にやっている。	法人内で作られた食事職員も一緒に同じ物をテーブルを囲み食べている。季節食や誕生日食など雰囲気作りを大切にしている。手伝える方はトレイを並べたり、皿拭き、片付けもしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立の作成。食事の残食量のチェックを記録し摂取量を把握している。入居者の方の体調に合わせて食事形態、水分量摂取出来るよう職員が把握し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛けを行い能力に応じて職員が見守りや介助を行い清潔保持し肺炎防止に努めている。		

事業者名:グループホーム菜の花(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンや習慣を把握しトイレ誘導したり、その方に合った下着や衣類を使用し本人の気持ちに配慮しながら自立にむけた支援を行っている。	日中は声掛けによるトイレでの排泄を基本に支援している。排泄パターンに応じ、動きや様子を見て声掛け誘導をしている。夜間ふらつきのある方、頻尿の方はポータブル使用を使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取やバランスの取れた食事、乳製品を取り入れている。散歩や体操、家事活動等体を動かす機会を適度に設けて自然排便出来る様取り組んでいる。排泄パターンを記録し便秘の方には十分な水分補給と散歩の声掛け実施をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	決めている入浴日はあるが本人が望まなければ入浴日の変更や時間帯を考慮して声掛け、支援し安心してゆっくり入浴してもらっている。	週三回の入浴が基本となっている。季節のしょうぶ湯、ゆず湯の入浴等楽しむ工夫もされている。一人ひとりの気持ちに寄り添い支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来る限り日中の活動を促し生活リズムを整える様努めている。また、1人1人の体調や表情、希望等を考慮してゆっくり休める様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が処方箋の内容を把握出来るようにしている。服薬時は本人に手渡しきちんと服薬が出来ているか確認している。処方や内容変更時に状態変化がある時は記録し医師、看護師と連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味を活かし楽しみながら持っている力を引き出せる様に支援しその方々が役割や気分転換出来る様に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	インフルエンザやコロナ感染症流行にて外出難しい時期もあったが近隣を散歩したり、外泊したり出来る限りの気分転換が出来る様に支援している。	コロナ禍で落ち着かずにいるが、人通りの少ない時間帯に近くの神社や公園で散歩を楽しんでいる。外泊も主治医の許可が出れば可能であり、気分転換出来る様努めている。	

事業者名:グループホーム菜の花(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人持ちのお金があり必要な物があれば職員対応で買い揃える事ができるが管理が難しい方は預り金として施設管理しながら必要時に応じて職員対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族から電話があった際はご本人と会話して頂いたり、希望時はご本人からご家族へ電話かけたり正月はご家族様へ年賀状を出す支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時間帯に応じて窓から日差しを取り入れたり、室温と換気の実施、場所によって照明の調節など行い利用者の方が快適に過ごせる様にしている。リビングには一目で日付がわかるカレンダーと利用者の方が作成した季節の作品を展示しており季節感感じられる空間となっている。	共有空間にはテレビやソファ、食卓が置かれ、自宅のリビングを感じる工夫がされている。陽も差し込み温かさを感じる。一人ひとりがのんびり過ごせる様努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関にベンチを置いたり、テーブル席やソファなどフロア内に別の空間を作り椅子の位置にも配慮しながら気の合う方々で会話や思い思いに過ごせる様に支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具やタンス、仏壇等、写真や思い出の品々を居室に持ち込み馴染みの物、好みの物を活かし居心地よさを配慮している。	一人ひとりの思いを大切に自室の工夫がされている。家族の写真や手芸品も飾られ、仏壇を置いている人もいる。家と同じ様居心地良く過ごせる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の能力、理解力等を追求しリスクを考慮しながら自立した生活が送れる様環境整備に努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470101496		
法人名	特定医療法人 善昭会		
事業所名	グループホーム菜の花(2階)		
所在地	大分県大分市東鶴崎3丁目1番6号		
自己評価作成日	令和5年10月1日	評価結果市町村受理日	令和6年1月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和5年11月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かで落ち着いた住宅地に立地し日当たりも良く周囲の環境に恵まれている。隣には保育園があり可愛い園児の声が聞こえて来たり散歩している姿が見えると手を振ったりして和んでいます。母体の医療機関や介護施設と併設しており緊急時の対応を迅速に行っている。季節感のある行事、貼り絵等を実施。誕生日には月でまとめず個別でお祝いし大切な行事として捉えている。毎月、ご家族様や町内会に郵送及び回覧している「菜の花たより」は写真を主としてご家族様が入居者様の普段の様子や状態を把握出来ると好評である。毎日入浴の機会を設けている為保清を保てるのと体調の変化にも対応しやすい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【グループホーム菜の花 1階ユニット】に記載

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域と共に、自然と共にその人らしく」を理念とし、その実践に向けて日常的に教育している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症流行にて地域との交流は思うようにできていない。その代わりに行った行事等を毎月新聞「菜の花だより」に載せて地域の方へ回覧板で知ってもらい交流図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて職員が参加した研修で学んだ内容、感想を発表している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催している。104回の開催となり参加者からの意見等は施設職員にも周知しサービス向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や行事に参加してもらう等で事業所の取り組みを伝え、それについての意見をもらったり評価結果についてもその場で報告する。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する研修に職員定期的に参加し定例会で勉強会として再度発表。共有認識を図っている。入居者の状態を観察し見守ることで拘束しないケアの実践に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修に職員定期的に参加し定例会で勉強会として再度発表。共有認識を図っている。又、職員の言動にも気を配り助言やアドバイスを行っている。		

事業者名:グループホーム菜の花(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は定期的に権利擁護の研修に参加し、成年後見制度についても学び定例会で勉強会として再度発表。共有認識を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前までは相談員が、契約とその後は管理者やホームの職員が家族や関係者へ説明し納得した上で同意を得ている。改定時は文書にて説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱、苦情相談施設の案内等、玄関に設置している。毎月の便りに個別のメッセージをそえている。運営推進会議に入居者、ご家族様の参加お願いし意見、要望を頂いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例会を開き職員一人一人の発言のもと全員が自由に意見を言い業務の見直しや運営に活かしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当、時間外手当等の支給や、やむを得ない理由で業務に支障が出た場合にも柔軟な対応ができるように日頃より働きやすい職場環境に努めている。講演会や研修参加、資格取得への支援もしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外で開催される研修には出来る限り多くの職員が参加できるようにしている。職員は積極的に研修に参加しスキルアップを目指せるようにしている。研修の報告は勉強会を兼ねて定例会で発表。報告書は誰でも閲覧出来るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染流行あり同業者との交流機会が減ってしまったが勉強会等は感染に配慮しながら参加、交流に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に事業所を見に来てもらい必要であれば通って貰ったりお話ししながら安心して施設での生活が送れる様関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居する際事前に見学に来てもらったりご家族の方と対面で困っている事、要望等に耳を傾け相談員、ケアマネ、管理者が連携してご家族との話し合いの上信頼関係を作る。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントで得た情報を元に相談員、ケアマネ、管理者が連携し必要なケアを見極め可能な限り柔軟な対応を行える様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の得意な事や出来る事を把握し一緒にやりながら教えてもらったり助け合ったりする。又、そういう場面が多くもてる工夫をする。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはどんな小さな事でも報告する。また、いつもと違う事や伝えたい事あればすぐに家族連絡する。毎月「菜の花だより」には担当がそれぞれの家族に現状を報告する。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、知人との関係を大切に維持できるように、電話、手紙などで関係の継続を心掛けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性について情報連携し、全ての職員が共有できる様にしている。毎日の食事やお茶の時間は職員も一緒に話し様子見て入居者同士の関係が円滑になるように働きかけている。		

事業者名:グループホーム菜の花(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連携機関の利用や面会に行く等して関係を断ち切らない様になっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言葉をしっかり受け止め希望や意向の把握に努める。意思疎通困難な方には、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートの作成、併設施設との情報交換、家族、関係者からの情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	他職種との連携、職員間の情報交換、分かりやすい記録の仕方、定期的なカンファレンス等により、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の方一人一人に職員担当者を決めている。本人、家族、主治医、職員からの意見を反映し本人が良く暮らせるための課題をあげ、職員全員で意見交換、モニタリング、カンファレンスを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや入居者の状態変化には個々のケア記録や独自のシート、看護記録に記入している。本人の言葉で記録し情報を共有し、それらを基に見直し、評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の意向に配慮しながら、面会の延長や外泊、受診の付き添い等、柔軟に対応している。		

事業者名: グループホーム菜の花(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事を把握しコロナ感染流行で地区行事に参加出来なかった時は暮らしに取り入れたり、消防署、民生委員等との意見交換もしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所協力の他、本人や家族に情報提供し希望する医療が受けられるよう支援している。また、訪問診察に来て貰うケースもあり複数の医療機関との連携も密に結んでいる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており常に本人の健康管理や状態変化に応じた支援を行える様にしている。看護職員がいない時は連携医療機関との連携も密にとれる体制が確保されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院による廃用症候群を防ぐため医師や看護師と相談し事業所内での対応可能な段階でなるべく早く退院出来る様アプローチしている。又、職員が頻繁に見舞う様にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意思確認書を作成し、事業所が対応し得る最大のケアについて入居時に説明を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの設置と緊急時対応の勉強会を実施している。夜間時の緊急対応についてもマニュアルを整備し周知徹底を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し消防署の協力を得て年2回避難訓練、避難経路の確認、消火器や消火設備の使い方等の訓練を行っている。非常食を準備し地域の協力体制については自治会や消防団に運営推進会議を通じて協力を呼びかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会やカンファレンスの際に職員の意識向上を図るとともに日々の関わり方をリーダーが確認し本人の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の方々に合わせて言葉かけを変えたり、表情を読み取ったりしながら思いを聞き出し複数の選択肢を提案して自己決定できる様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設での一日の流れはある程度あるが入居者の方の体調に合わせてその時の思いを尊重し出来るだけ個別性のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の更衣は本人の意向で決めており、職員は見守り支援が必要な時に手伝っている。自己決定出来ない入居者の方には職員と一緒に考えて鏡を見ながら支援している。散髪時には自分で言える様に職員が付き添いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食に関心を持ってもらい食欲を高める為にその都度献立を伝えたり、口腔体操を実施し食事を楽しんで貰える様に努めている。後片付けは入居者様にも手伝って頂き一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立の作成。食事の残食量のチェックを記録し摂取量を把握している。入居者の方の体調に合わせて食事形態、水分量摂取出来るよう職員が把握し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛けを行い能力に応じて職員が見守りや介助を行い清潔保持し肺炎防止に努めている。		

事業者名: グループホーム菜の花(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンや習慣を把握しトイレ誘導したり、その方に合った下着や衣類を使用し本人の気持ちに配慮しながら自立にむけた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取やバランスの取れた食事、乳製品を取り入れている。散歩や体操、家事活動等体を動かす機会を適度に設けて自然排便出来る様取り組んでいる。排泄パターンを記録し便秘の方には十分な水分補給と散歩の声掛け実施をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	決めている入浴日はあるが本人が望まなければ入浴日の変更や時間帯を考慮して声掛け、支援し安心してゆっくり入浴してもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来る限り日中の活動を促し生活リズムを整える様努めている。また、1人1人の体調や表情、希望等を考慮してゆっくり休める様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が処方箋の内容を把握出来るようにしている。服薬時は本人に手渡しきちんと服薬が出来ているか確認している。処方や内容変更時に状態変化がある時は記録し医師、看護師と連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味を活かし楽しみながら持っている力を引き出せる様に支援しその方々が役割や気分転換出来る様に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	インフルエンザやコロナ感染症流行にて外出難しい時期もあったが近隣を散歩したり、外泊したり出来る限りの気分転換が出来る様に支援している。		

事業者名:グループホーム菜の花(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人持ちのお金があり必要な物があれば職員対応で買い揃える事ができるが管理が難しい方は預り金として施設管理しながら必要時に応じて職員対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族から電話があった際はご本人と会話して頂いたり、希望時はご本人からご家族へ電話かけたり正月はご家族様へ年賀状を出す支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時間帯に応じて窓から日差しを取り入れたり、室温と換気の実施、場所によって照明の調節など行い利用者の方が快適に過ごせる様にしている。リビングには一目で日付がわかるカレンダーと利用者の方が作成した季節の作品を展示しており季節感感じられる空間となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席やテレビをゆっくり見れる空間を用意したりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具やタンス、仏壇等、写真や思い出の品々を居室に持ち込み馴染みの物、好みの物を活かし居心地よさを配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の能力、理解力等を追求しリスクを考慮しながら自立した生活が送れる様環境整備に努めている。		